

2008 年 9 月 9 日
北海道ガス株式会社

天然ガス供給体制の強化について

北海道ガス株式会社（本社：札幌、社長：大槻博）は、今後一層の拡大が見込まれる北海道内の天然ガス需要に対応し、将来にわたり天然ガスを安定的に供給できる体制を整えるため、石狩湾新港地区にLNG（液化天然ガス）受入基地を建設することとし、本年 7 月には用地を取得し、8 月からは地盤改良工事に着手しております。（本計画については、2008 年 4 月 16 日に公表済み）

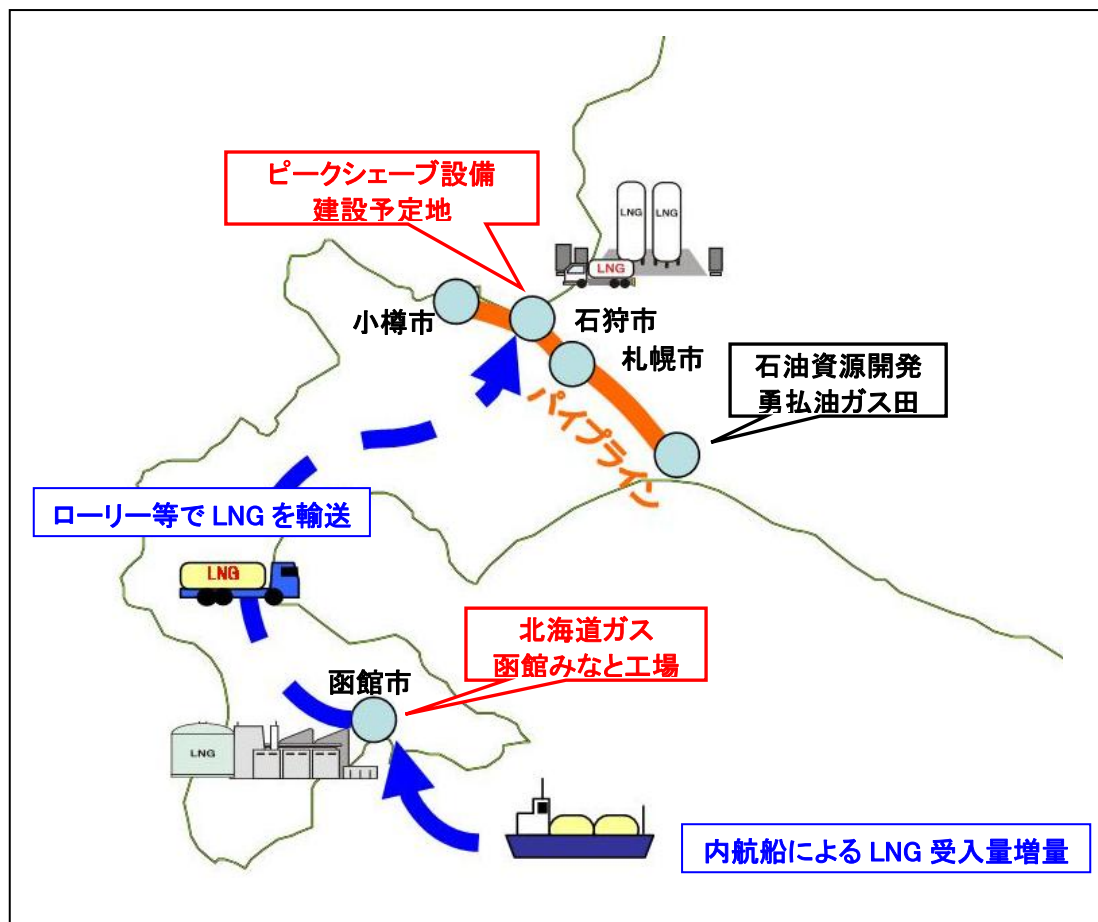
一方、昨今の地球環境問題への意識の高まり、ならびに石油製品価格の高騰を受け、環境性と供給安定性に優れた天然ガスの導入を検討されるお客さまが想定を上回るペースで増加しております。これらの状況を踏まえ、現在、当社が天然ガスの供給を受けている石油資源開発株式会社（本社：東京、社長：渡辺修）には、勇払油ガス田（苫小牧）の生産設備増強に努めていただいておりますが、LNG 受入基地稼働までの間の需要増加に対応していくためには、両社で連携してさらなる天然ガス供給体制の強化に取り組む必要があるとの判断に至りました。

この対応として、当社では「函館みなと工場」の設備を増強し、冬期間の需要増に対応するため内航船によるLNGの受け入れ可能量を増量いたします。一方、石油資源開発株式会社においては、当社の旧石狩工場跡地（現在は当社の供給所として利用）に「ピークシェーブ設備」として小型のLNGサテライト基地を新たに建設し、「函館みなと工場」からローリー等で輸送したLNGをここに貯蔵し、冬期間の需要ピークにあわせたガス送出を計画しております。

両社は 2010 年冬の運用開始を目指し、今後、準備を進めてまいります。

当社では、今後とも北海道におけるクリーンエネルギー天然ガスの普及に努めるとともに、安定供給の確保に万全を期してまいりますので、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

1. 天然ガス供給体制強化の概要(概略図)



2. 増設・新設する設備の概要

1) 函館みなと工場(増設)

建設場所: 函館市港町3丁目(現函館みなと工場敷地内)

増設設備: LNGタンク、LNGポンプ、ローリー出荷設備 等(詳細については検討中)

予定工期: 2009 年夏着工、2010 年秋完成

2) ピークシェーブ設備(新設)

建設場所: 石狩市新港中央4丁目(当社旧石狩工場跡地)

主な設備: LNGタンク、LNG気化器、熱量調整設備、付臭設備 等(詳細については検討中)

予定工期: 2009 年春着工、2010 年秋完成

※ 建設・運営については、勇払油ガス田からのパイプラインガス供給と一体的にオペレーションを行うため、石油資源開発(株)にて実施予定。

以 上

<参考>

【現在の天然ガス調達状況】

札幌・小樽・千歳地区で供給している天然ガスは、石油資源開発㈱が苫小牧市勇払地区で採掘する天然ガスをパイプラインで輸送しています。函館地区では、千葉県の東京ガス㈱袖ヶ浦工場から専用内航船「ノースパイオニア号」で液化天然ガス（LNG）を輸送し、使用しています。

地区	天然ガスの輸送・受入方法
札幌・千歳・小樽地区	苫小牧勇払産の天然ガスを産地から気体のままパイプラインで輸送し、当社の「北広島供給所」等で受け入れています。
函館地区	千葉県にある東京ガス㈱袖ヶ浦工場からLNGを内航船で輸送し、当社の「函館みなと工場」で受け入れています。

■天然ガスパイプライン



■ノースパイオニア号

